

2020 年度 研究所事業報告書

研究所名	人間科学研究所
------	---------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5 ヵ年)および 2019 年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうことができるだけわかりやすく記述してください。なお、2019 年度に採択を受けた研究所重点プロジェクトの実績報告は、書式 B に記述のうえ提出してください。

1. 重点プロジェクトの推進

以下の 3 課題を重点プロジェクトとし、第 3 期 R-GIRO の 2 つの研究プロジェクト（修復的司法観による少子高齢化社会に寄り添う法・社会システムの再構築、ならびに、学融的な人間科学の構築と科学的根拠に基づく対人援助の再編成）と連携を行いつつ、研究展開を行った。下記 3 つのプロジェクトにサブ・プロジェクトを組み込んだ研究プロジェクトを実施し、多彩な活動が展開された。各プロジェクトの特筆すべき成果・取り組みは以下の通りである。

(1) 「法と対人援助」：①刑事事件に関わる供述調書や公判調書をテキストマイニングの手法を使って分析する研究の他、実際の刑事事件調書の分析結果を法廷で証言するなど社会実践に取り組んだ。②海外での知的障がいのある性加害者への治療教育における「わかりやすさ」と支援者の役割の観点から治療教育プログラムを比較検討した。③犯人の顔の知識のある取調官の言動が、目撃者の識別判断に及ぼす影響を明らかにする目的で、模擬取調実験を実施した。④COVID-19 における障害学生やアジア系滞在者等周縁の人びとの状況についてヒアリングを行った。⑤FLASH で構築した実験システムの改良と予備調査を中心に行った。⑥司法面接が人権擁護に果たす役割につき、英国の例などを調査し執筆した。

(2) 「対人援助の学融的研究」：①図形課題解決中に、「後押し」の助言」と「注意喚起の助言」を行った際の脈波、呼吸、皮膚コンダクタンスの計測を行い、相違を分析するとともに、行動データの平均所要時間と平均助言回数を算出した。②行動的 QOL の問題について、障害のある個人の支援から研究をスタートした③妊娠 25 週目前後に妊娠期女性のキャリアと生活に関する内容で実施し、2020 年 3 月末までに 48 名の調査協力を得ることができた。④質的研究法 TEA（複線径路等至性アプローチ）/TEM（複線径路等至性モデリング）に関する研究を推進した。⑤高齢者の QOL 向上に向けた研究では、コロナ禍の影響に関するオンライン調査を行い、情報への懸念などの知見を得た。

(3) 「対人援助研究のフロンティア」：①高齢者が多連続してエラーを起こしてしまう現象に注目し、どのような要因が影響しているのかを検討した。②思考場療法の技法である鎖骨呼吸法の効果を検証するため、鎖骨呼吸を行う群とその他の呼吸を行う 2 群を設け、実験のデータを分析・考察した。③IRAP/FAST を用いた言語的自己概念に関する実験的研究を実施した。④社会・医療サービス場面における特別な必要の把握、複雑な社会・医療組織における社会包摂的サービスの供給、社会的文脈をふまえた包摂的制度の形成、必要・サービス供給・制度開発の相互連関という研究の枠組みをもとに、多面的な検討を進めた。新型コロナ感染症の流行という状況の中で生じる諸課題については、重点的に検討を進めた。⑤自閉スペクトラム症児を対象に、遊びを中心とする療育プログラム開発を行った。⑥「男性介護者と支援者の全国ネットワーク」と協働し、男性介護者と支援者の学習教材として「MC[Male Carers] Booklet」の 2～5 集を発行した。⑦忘却に関する 3 つの研究（レストルフ効果と関連する順向健忘、個数推定課題における事象分節化の影響、日常生活におけるうっかり忘れの分類）を行い認知心理学学会大会において発表した。⑧虐待と DV 問題の危機的増加に対応すべく家族支援の新しい展開をささえるカギとなる社会的養育の構築をめざす社会実証的研究に取り組んだ。⑨ネオジム磁石の配置によるシン磁場刺激装置を作製し、磁場の強さを計測した。シン磁場刺激は従来の経頭蓋静磁場刺激より深部まで脳機能調節作用を持つことが示された。

2. 学術誌の刊行と 20 周年記念事業など研究成果の公開

- 査読論文を中心とする『立命館人間科学研究』を 2 号刊行した。
- 20 周年記念事業として、記念総会と連続講座「危機と人間科学」（全 5 回）を実施した。総会では、今後の活動を展望するシンポジウム「人間科学の未来-多様性を架橋する」を土曜講座として実施するとともに、ポスターセッション（オンライン上）を行った。研究所のこれまで足跡を HP 上で公開した。コロナ禍に合わせ、これらの取り組みはオンライン上で実施した。

3. 若手研究者の育成

- 研究所年次総会では若手研究者にポスター発表の場を設けた。専門研究員・研究員のみならず、大学院生などもプロジェクトに積極的に参加するとともに、多くの大学院生がポスター発表を行った。
- 若手研究者のステップアップとして、本プロジェクト所属の専門研究員 1 名が他大学の教授に就任した。また外部資金を原資として若手研究者一名（研究教員）を任用、重点プロジェクトのメンバーとした。
- R-GIRO 所属の若手研究者をはじめ、若手研究者を所内重点・萌芽プロジェクトメンバーとし、プロジェクト室を提供するなど、研究資源の配分を積極的に進めるとともに研究上の連携を奨励した。

4. その他研究の展開

- 重点プロジェクトに加えて、18 の一般プロジェクト研究、5 の萌芽プロジェクト研究が広く展開された。また、えん罪救済、新型コロナ感染症、社会的養育など時事問題に絡んだ研究について各種メディアより取材依頼・引用・参照されるなど、社会から注目、評価を受けたことも特筆したい。
- 社会的要請に直接対応する事業を以下のように展開した。①日本財団助成金を受け、高度専門職養成に向けて実施している「フォスタリング・ソーシャルワーク専門職講座」を昨年度に続き開講し、30 名（申込者 42 名）が修了した（2023 年度まで継続予定）。②京都府委託事業として、男性問題にかかわる専門相談員による DV 加害者更生カウンセリングを実施した。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2021年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
研究所長・センター長	松田 亮三	産業社会学部	教授
運営委員	岡田 まり	産業社会学部	教授
	サトウ タツヤ	総合心理学部	教授
	谷 晋二	総合心理学部	教授
	土田 宣明	総合心理学部	教授
	矢藤 優子	総合心理学部	教授
	安田 裕子	総合心理学部	准教授
	若林 宏輔	総合心理学部	准教授
	森久 智江	法学部	教授
	稲葉 光行	政策科学部	教授
	斎藤 真緒	産業社会学部	教授
	中村 正	産業社会学部	教授
	増田 梨花	人間科学研究科	教授
	村本 邦子	人間科学研究科	教授
	岸 政彦	先端総合学術研究科	教授
	美馬 達哉	先端総合学術研究科	教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	竹内 謙彰	産業社会学部	教授
	津止 正敏	産業社会学部	特任教授
	大谷 いづみ	産業社会学部	教授
	岡本 尚子	産業社会学部	准教授
	星野 祐司	総合心理学部	教授
	岡本 直子	総合心理学部	教授
	仲 真紀子	総合心理学部	教授
	中鹿 直樹	総合心理学部	准教授
	林 勇吾	総合心理学部	准教授
	松本 克美	法務研究科	教授
	北出 慶子	文学部	教授
	山浦 一保	スポーツ健康科学部	教授
	山口 洋典	共通教育推進機構	教授
	斎藤 進也	映像学部	准教授
	早川 岳人	衣笠総合研究機構	研究教員(教授)
	開沼 博	衣笠総合研究機構	特別招聘研究教員 (准教授)
	金 成恩	立命館グローバル・イノベーション研究機構	研究教員(助教)
上宮 愛	総合心理学部	特任助教	

		對梨 成一	文学部	助教	
		都賀 美有紀	総合心理学部	特任助教	
		廣瀬 翔平	総合心理学部	助手	
		平岡 義博	衣笠総合研究機構	招聘研究教員（教授）	
		堀江 未来	国際教育推進機構	教授	
		原 幸一	文学部	教授	
		川端 美季	衣笠総合研究機構	特別招聘研究教員（准教授）	
		北川 智利	BKC 社系研究機構	招聘研究教員（教授）	
		石田 賀奈子	産業社会学部	准教授	
		徳永 祥子	衣笠総合研究機構	研究教員（准教授）	
学内の若手研究者	① 専門研究員 研究員 初任研究員	山崎 優子	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員	
		孫 怡	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員	
		肥後 克己	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員	
		神崎 真実	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員	
		我藤 諭	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員	
		山田 早紀	立命館グローバル・イノベーション研究機構	研究員	
		芝田 純也	衣笠総合研究機構	専門研究員	
	② リサーチアシスタント				
	③ 大学院生	木村 祐子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程	
		佐藤 あつみ	人間科学研究科	博士課程後期課程	
		森井 花音	人間科学研究科	博士課程前期課程	
		廣田 貴也	人間科学研究科	博士課程前期課程	
		橋爪 涼	人間科学研究科	博士課程前期課程	
		下條 志巖	人間科学研究科	博士課程前期課程	
		星田 雅弘	人間科学研究科	博士課程後期課程	
		高山 仁志	人間科学研究科	博士課程後期課程	
		尾崎 怜子	人間科学研究科	博士課程前期課程	
		衛藤 優里	人間科学研究科	博士課程前期課程	
		連 傑濤	人間科学研究科	博士課程後期課程	
李 星鎬		人間科学研究科	博士課程前期課程		
土元 哲平		文学研究科	博士課程後期課程		
武田 悠衣		人間科学研究科	博士課程前期課程		
手島 洋		社会学研究科	博士課程後期課程		
西田 朗子	社会学研究科	博士課程後期課程			
小嶋 理恵子	社会学研究科	博士課程後期課程			

		金森 京子	社会学研究科	博士課程後期課程
		江頭 典江	社会学研究科	博士課程後期課程
		井上 智恵	社会学研究科	博士課程後期課程
		大谷 明弘	社会学研究科	博士課程後期課程
		松元 佑	社会学研究科	博士課程後期課程
		富井 奈菜実	社会学研究科	博士課程後期課程
		目黒 朋	社会学研究科	博士課程後期課程
		戸名 久美子	人間科学研究科	博士課程後期課程
		安井 美鈴	人間科学研究科	博士課程後期課程
		藤田 恭未	人間科学研究科	博士課程前期課程
		高村 希帆	人間科学研究科	博士課程前期課程
		近藤 礼菜	人間科学研究科	博士課程前期課程
		操谷 美沙	人間科学研究科	博士課程前期課程
		谷 千聖	人間科学研究科	博士課程前期課程
		杉山 健	人間科学研究科	博士課程前期課程
		稲次 望	人間科学研究科	博士課程前期課程
		高磯 伯羽	人間科学研究科	博士課程前期課程
		遠田 勇介	人間科学研究科	博士課程前期課程
		山内 直哉	人間科学研究科	博士課程前期課程
		高橋 穂波	人間科学研究科	博士課程前期課程
		木村 駿	人間科学研究科	博士課程前期課程
		佐藤 文紀	人間科学研究科	博士課程後期課程
		村上 崇至	人間科学研究科	博士課程後期課程
		西井 開	人間科学研究科	博士課程後期課程
		市川 岳仁	人間科学研究科	博士課程後期課程
		高橋 康史	人間科学研究科	博士課程後期課程
		村山 佳子	人間科学研究科	博士課程後期課程
	④ 日本学術振興会特別 研究員 (PD・RPD)			
その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研究 生、研修生等)		破田野 智美	立命館大学文学部	非常勤講師
		破田野 智己	立命館グローバル・イノベーション研究機 構	補助研究員
		斧原 藍	立命館グローバル・イノベーション研究機 構	補助研究員
		大野 静代	産業社会学部	授業担当講師
		中村 隆一	産業社会学部	授業担当講師
		荒木 穂積	人間科学研究科	授業担当講師
客員協力研究員		村本 詔司	神戸市外国語大学	名誉教授
		元山 彩織	中央学院大学	教授
		浅田 和茂	大阪市立大学	名誉教授
		笹倉 香奈	甲南大学	教授
		植村 要	国立国会図書館	参事

	孫 琴	淡水日本資源株式会社	会社員
	ポーター 倫子	Washington State University, Department of Human Development,	Instructor
	荒木 美知子	龍谷大学	特任教授
	中西 真	帝京科学大学	助教
	深川 望	佛教大学	非常勤講師
	鈴木 祐子	-	-
	谷口 正弘	-	-
	河上 実樹	株式会社 恵心社 (放課後等デ イサービス)	児童指導員
	浜田 寿美男	奈良女子大学	名誉教授
	和食 慶江	立命館大学	非常勤職員
	山崎 まどか	Philip Japan, Neuro,	Clinical Application Scientist
	黒田 恭史	京都教育大学教育学部	教授
	乾 明紀	京都光華女子大学	准教授
	恒松 伸	立命館大学総合心理学部	非常勤講師
	上村 晃弘	立命館大学文学部	非常勤講師
	吉田 甫	立命館大学文学部	非常勤講師
	石川 眞理子	龍谷大学教職課程	非常勤講師
	高橋 伸子	京都光華女子大学	非常勤講師
	安井 美鈴	大阪人間科学大学 人間科学部医療心理学科	准教授
	戸名 久美子	星ヶ丘医療センター	言語聴覚士
	松島 京	相愛大学	准教授
	由井 秀樹	関西大学	非常勤講師
	村上 慎司	金沢大学	講師
	棟居 徳子	早稲田大学	教授
	高山 一夫	京都橘大学	教授
	荒木 晃子	内田クリニック	生殖心理カウンセ ラー
	森川 綾女	一般社団法人日本TF T協会	理事長
	大原 ゆい	大谷大学社会学部	専任講師
	千葉 晃央	京都府家庭支援総合センター	ケースワーカー
	尾崎 俊也	公益社団法人国際経済労働研究 所	編集部非常勤職員
その他の学外者	川本 静香	山梨大学大学院総合研究部	准教授
	相澤 育郎	立正大学法学部	助教
	春日 秀朗	福島県立医科大学 医学部	助手

	滑田 明暢	静岡大学大学教育センター	講師
	坂田 陽子	愛知淑徳大学 心理学部	教授
	春日 彩花	大阪大学大学院人間科学研究科	助教
	與久田 巖	大阪夕陽丘学園短期大学	准教授
	福田 茉莉	島根大学 医学部環境保健医学講座	助教
	西川 大輔	南山城支援学校	教諭
	目黒 朋	大阪健康福祉短期大学	教授
	岡部 茜	大谷大学	講師
	坪井 宏仁	金沢大学 医薬保健研究域薬学系	准教授
	坂本 貴和子	大学共同利用機関法人自然科学研究機構生理学研究所総合生理研究部門	特任准教授
	渡辺 英治	大学共同利用機関法人自然科学研究機構基礎生物学研究所	准教授
研究所・センター構成員 計 140 名 (うち学内の若手研究者 計 51 名)			

Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2021年3月31日時点) また、書式Bの研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

(1). 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	稲葉 光行	日本の法科学が科学であるために ～改革に向けた提言	分担執筆	2021年3月	現代人文社	平岡義博, 木村祐子, 千原國宏, 藤田義彦	-
2	林 勇吾	生体情報センシングと人の状態推定への応用/ 「眼球運動の測定による注意の推定」林勇吾(担)4章5節	共著	2020年7月	技術情報協会	村田貴士(編)	385-394
3	上宮 愛	第6章 記憶と感情. 川畑直人・大島剛・郷式徹(監修). 加藤弘通・川田学(編著). 公認心理師の基本を学ぶテキスト2 心理学概論 歴史・基礎・応用	共著	2020年	ミネルヴァ書房		81-96
4	サトウタツヤ	教育を心理学的に考えるとどうなるか? 育つ側・学ぶ側について理解して主体的に意味づけ生きていく方法を身につける	単著	2020年8月	ナカニシヤ出版竹尾和子, 井藤元(編)『ワークで学ぶ発達と教育の心理学』, ナカニシヤ出版		3-16
5	神崎 真実	Contextualised Understanding of and Transdisciplinary Approaches to School Dropout	共著	2020年5月	Springer Educating Adolescents Around the Globe. Cultural Psychology of Education, vol11 11	Kanzaki M., Jensen M., Kawamata T., & Onohara A.	265-282
6	中村 正	マイクロアグレッション-人種、ジェンダー、性的指向: マイノリティに向けられる無意識の差別	共訳	2020年12月	明石書店	朴希沙、金友子ほか	
7	松田 亮三	補論 米国の医療と脆弱な人々 in 社会的弱者への診療と支援 格差社会アメリカでの臨床実践指針	単著	2020年6月	金芳堂		367-371
8	松田 亮三	社会的弱者への診療と支援 格差社会アメリカでの臨床実践指針	監修	2020年6月	金芳堂	小泉昭夫監訳(原著 Talmadge E. King・Margaret B.	

						Wheeler (編)	
9	松田 亮三	2020 International Health Care Systems Profiles	分担執筆	2020年6月	The Commonwealth Fund.	the profiles edited by Roosa Tikkanen, Robin Osborn, Elias Mossialos, Ana Djordjevic, and George A. Wharton.	
10	谷 晋二	言語と行動の心理学	編者(編著者)	2020年4月	金剛出版		3-78,208-222

(2). 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	稲葉 光行	目撃証言の信頼性評価：司法判断と心理学的知見の乖離について	共編者(共編著者)	2020年12月	法と心理 20(1)	巖島行雄, 山崎優子, 小原健	94-102	
2	安田 裕子	Career Development during the School-to-Work Transition among the Students of Middle-Ranked Universities in Japan	共著	2020年	Journal of Asian Vocational Education and Training 13	Banda, K., Sugimori, S., Sato, T., & Toyoda, Y.	1-25	
3	安田 裕子	特集：「いばらきコホート調査」の紹介 「いばらきコホート調査」における倫理的配慮	共著	2020年6月	日本保健福祉学会誌 26(2)	神崎真実・川本静香・妹尾麻美・中田友貴・肥後克己・孫怡・岡本尚子・サトウタツヤ・鈴木華子・矢藤優子	17-25	
4	安田 裕子	特集：「いばらきコホート調査」の紹介 「いばらきコホート調査」における調査設計と概要	共著	2020年6月	日本保健福祉学会誌 26(2)	妹尾麻美・孫怡・肥後克己・神崎真実・中田友貴・川本静香・岡本尚子・サトウタツヤ・鈴木華子・矢藤優子	5-16	
5	安田 裕子	第1子妊娠中の女性労働者からみた「働き方戦略」再考	共著	2020年9月	日本女子大学現代女性キャリア研究所現代女性とキャリア (12)	妹尾麻美・三品拓人	51-63	
6	安田 裕子	対人援助学&心理学の縦横無尽 (29) ヤーンの古希を言祝ぐー日本ならびに立命館大学におけるTEMとヤーンのネットワークの拡大 (1) 2008年まで.	共著	2020年12月	対人援助学会対人援助学マガジン (43)	サトウタツヤ・木戸彩恵・土元哲平	84-92	
7	安田 裕子	国際教育交流が育む学生ピア・サポートの多様化ー多文化サービスラーニングの可能性を巡って	共著	2021年3月	立命館大学教育開発推進機構立命館高等教育研究(21)	村山かなえ・北出慶子・遠山千佳・山口洋典	139-158	
8	安田 裕子	家事・育児に関して妻が担う潜在的活動の内実と過程ー妊娠・育児期の女性への聞き取り調査から	共著	2021年3月	立命館大学人間科学研究立命館人間科学研究(43)	三品拓人・妹尾麻美	1-16	
9	若林 宏輔	法律実務家のための心理学入門 第11回 選任手続と心理学	単著	2020年4月	季刊刑事弁護 102		159-162	
10	若林 宏輔	法律実務家のための心理学入門 第12回 科学的陪審選任と心理学	単著	2020年7月	季刊刑事弁護 103		176-179	

11	若林 宏輔	法律実務家のための心理学入門 第13回 弁護人のマスク--コロナ禍の司法と心理学	単著	2020年10月	季刊刑事弁護 104		176-179	
12	若林 宏輔	法律実務家のための心理学入門 第14回 司法のIT化とCMCコミュニケーション: コロナ禍の司法と心理学(2)	単著	2021年1月	季刊刑事弁護 105		131-134	
13	林 勇吾	Web上での教育用会話エージェントとの説明活動における学習者の確信度推定: 個人特性と課題活動量に着目した検討	単著	2020年8月	ヒューマンインタフェース学会論文誌 22(3)		263-270	
14	林 勇吾	WESPAを用いた説明活動の支援: オンライングループにおける他者の発言ログの例示による学習効果の検討	単著	2020年10月	電子情報通信学会論文誌 D J103-D(10)		676-684	
15	林 勇吾	Gaze awareness and metacognitive suggestions by a pedagogical conversational agent: An experimental investigation on interventions to support collaborative learning process and performance	単著	2020年12月	SpringerInternational Journal of Computer-Supported Collaborative Learning			
16	林 勇吾	Observing Facial Muscles to Estimate the Learning State During Collaborative Learning: A Focus on the ICAP Framework	共著	2020年12月	Proceedings of the 28th International Conference on Computers in Education(ICCE2020)	CAI, Y., Shimojo, S.,	119-126	
17	林 勇吾	Prompting Learner-Learner Collaborative Learning for Deeper Interaction: Conversational Analysis Based on the ICAP Framework	共著	2020年12月	Proceedings of the 28th International Conference on Computers in Education(ICCE2020)	Shimojo, S.	177-182	
18	上宮愛	性犯罪の再犯予防に関する現状と課題ー領域横断的な共同研究の可能性に焦点を当てて	共著	2020年	法と心理 20(1)	仲真紀子, 鈴木愛弓, 横光健吾, 山祐嗣, 山本渉太, 越智啓太	121-127	
19	山崎優子	死刑および終身刑に対する市民意識	共著	2020年9月	龍谷法学 53(1)	大谷彬矩	273-292	
20	矢藤 優子	「いばらきコホート調査」における倫理的配慮	単著	2020年6月	日本保健福祉学会誌 26(2)	神崎真実・川本静香・妹尾麻美・中田友貴・肥後克己・孫怡・岡本尚子・安田裕子・サトウタツヤ・鈴木華子	17-25	
21	矢藤 優子	「いばらきコホート調査」における調査設計と概要	単著	2020年6月	日本保健福祉学会誌 26(2)	妹尾麻美・孫怡・肥後克己・神崎真実・中田友貴・川本静香・岡本尚子・安田裕子・サトウタツヤ・鈴木華子	5-16	
22	矢藤 優子	赤ちゃんから高齢者まで、エビデンスに基づくシームレスな対人援助を実現する「いばらきコホート」の取り組み	単著	2020年6月	日本保健福祉学会誌 26(2)		3	
23	サトウタツヤ	Situational Experience around the World: A Replication and Extension in 62 Countries	共著	2020年	Journal of Personality	Daniel I. Lee, Gwendolyn Gardiner, Erica Baranski, Erica Baranski, Members of the International Situations Project and Funder, D.C.		

24	サトウタツヤ	[心理学史 諸国探訪] デンマーク	単著	2020年4月	心理学ワールド (89)		29	
25	サトウタツヤ	Situational experience around the world: A replication and extension in 62 countries	共著	2020年5月	Journal of Personality	Daniel I. Lee Gwendolyn Gardiner Erica Baranski Members of the International Situations Project David C. Funder		
26	サトウタツヤ	新型コロナウイルスの拡 散とそれに関するリス ク：オンライン調査の結 果対人援助学&心理学の 縦横無尽 (28)	共著	2020年6月	対人援助学マガジン (41)		93-104	
27	サトウタツヤ	人々に共通する心理を知 った上でマーケティング では個別性をすくい取る	単著	2020年7月	宣伝会議宣伝会議 (947)		38-39	
28	サトウタツヤ	心理学史諸国探訪 ブラ ジル	単著	2020年7月	日本心理学会心理学ワール ド (90)		29-29	
29	サトウタツヤ	大学生と接する全ての方 に読んでほしい1冊『大 学生のストレスマネジメ ント - 自助の力と援助 の力	単著	2020年7月	有斐閣書齋の窓 (670)		41-45	
30	サトウタツヤ	International Optimism: Correlates and Consequences of Dispositional Optimism Across 61 Countries	共著	2020年8月	Wiley Periodicals, Inc. Journal of Personality 88	Erica Baranski, Kate Sweeny, Gwendolyn Gardiner, Members of the International Situations Project, David C. Funder		
31	サトウタツヤ	消費者の「願い」からヒ ントを得る	単著	2020年9月	宣伝会議宣伝会議 (948)		159- 159	
32	サトウタツヤ	心理学と統計-歴史的な 検討を通じて未来を展望 する	単著	2020年9月	青土社現代思想 48(12)		154- 163	
33	サトウタツヤ	キャリアと文化の心理学 (1) 教育・発達心理学と キャリア教育の接合	共著	2020年9月	対人援助学マガジン (42)	土元哲平	288- 302	
34	サトウタツヤ	行為とその文脈を知る TEM という方法	単著	2020年10月	株式会社宣伝会議宣伝会議 (949)		215	
35	サトウタツヤ	心理学史諸国探訪 ニュ ージーランド	単著	2020年10月	日本心理学会心理学ワール ド (91)		29-29	
36	サトウタツヤ	人によって異なる、「元 の生活」をどう理解する か?	単著	2020年11月	株式会社宣伝会議宣伝会議 (950)		183- 183	

37	サトウタツヤ	チームで探究活動を行う生徒から見た総合学習の促進要因と課題 (1) - 京都府立鳥羽高校のイノベーション探究 I の実践から -	共著	2020年12月	京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部 京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部 研究紀要 59	乾明紀, 田中誠樹, 竹林祥子, 大泉幸寛, 宮崎雄史郎, ミューリニコラス, 久保友美, 杉岡秀紀, 高野拓樹,	123-141	
38	サトウタツヤ	Happiness around the world: A combined etic-emic approach across 63 countries.	共著	2020年12月	PLOSPLoS ONE 15(12)	Gardiner G, Lee D, Baranski E, Funder D, Members of the International Situations Project		
39	サトウタツヤ	看護専門学校に所属する看護教員の力量形成の構造 - 中堅期にある教員の語りから -	共著	2020年12月	看護教育研究会看護教育研究学会誌 12	田中千尋	13-24	
40	サトウタツヤ	ビッグデータより『ナノ』データ	単著	2020年12月	株式会社宣伝会議宣伝会議 (951)		183	
41	サトウタツヤ	TEM (複線径路等至性モデリング) ふたたび	単著	2021年1月	株式会社宣伝会議宣伝会議 (952)		159	
42	サトウタツヤ	心理学史諸国探訪 アルゼンチン	単著	2021年1月	日本心理学会心理学ワールド (92)		29	
43	サトウタツヤ	高大連携型教育を用いた探究学習に関する実践的研究 - 探究学習に対する生徒のイメージやスキルに影響を及ぼす要因 -	共著	2021年2月	京都大学地域連携教育研究 6	高野拓樹・松原久・糟野譲司・乾明紀・久保友美・杉岡秀紀	33-49	
44	サトウタツヤ	三鼎思考法で Market 「ing」 を捉えなおす	単著	2021年2月	株式会社宣伝会議宣伝会議 (953)		175	
45	安田 裕子	Career Development during the School-to-Work Transition among the Students of Middle-Ranked Universities in Japan	共著	2020年	Journal of Asian Vocational Education and Training 13	Banda, K., Sugimori, S., Sato, T., & Toyoda, Y.	1-25	
46	安田 裕子	特集: 「いばらきコホート調査」の紹介 「いばらきコホート調査」における倫理的配慮	共著	2020年6月	日本保健福祉学会誌 26(2)	神崎真実・川本静香・妹尾麻美・中田友貴・肥後克己・孫怡・岡本尚子・サトウタツヤ・鈴木華子・矢藤優子	17-25	
47	安田 裕子	特集: 「いばらきコホート調査」の紹介 「いばらきコホート調査」における調査設計と概要	共著	2020年6月	日本保健福祉学会誌 26(2)	妹尾麻美・孫怡・肥後克己・神崎真実・中田友貴・川本静香・岡本尚子・サトウタツヤ・鈴木華子・矢藤優子	5-16	
48	安田 裕子	第1子妊娠中の女性労働者からみた「働き方戦略」再考	共著	2020年9月	日本女子大学現代女性キャリア研究所現代女性とキャリア (12)	妹尾麻美・三品拓人	51-63	
49	安田 裕子	対人援助学&心理学の縦横無尽 (29) ヤーンの高希を言祝ぐ - 日本ならびに立命館大学における TEM とヤーンのネット	共著	2020年12月	対人援助学会対人援助学マガジン (43)	サトウタツヤ・木戸彩恵・土元哲平	84-92	

		ワークの拡大(1) 2008年まで、						
50	安田 裕子	国際教育交流が育む学生ピア・サポートの多様化ー多文化サービスラーニングの可能性を巡って	共著	2021年3月	立命館大学教育開発推進機構立命館高等教育研究(21)	村山かなえ・北出慶子・遠山千佳・山口洋典	139-158	
51	安田 裕子	家事・育児に関して妻が担う潜在的活動の内実と過程ー妊娠・育児期の女性への聞き取り調査から	共著	2021年3月	立命館大学人間科学研究所立命館人間科学研究(43)	三品拓人・妹尾麻美	1-16	
52	岡本 尚子	「いばらきコホート調査」における倫理的配慮	共著	2020年6月	日本保健福祉学会誌 26(2)	神崎真美, 川本静香, 妹尾麻美, 中田友貴, 肥後克己, 孫怡, 安田裕子, サトウタツヤ, 鈴木華子, 矢藤優子	17-25	
53	岡本 尚子	「いばらきコホート調査」における調査設計と概要	共著	2020年6月	日本保健福祉学会誌 26(2)	妹尾麻美, 孫怡, 肥後克己, 神崎真美, 中田友貴, 川本静香, 安田裕子, サトウタツヤ, 鈴木華子, 矢藤優子	5-16	
54	岡本 尚子	実物・タブレット・紙面における立体図形課題遂行時の学習者の解決方略の特徴ー生体情報を用いた分析を通してー	共著	2020年9月	数学教育学会誌 61(1・2)	木下卓海, 黒田恭史	89-97	
55	岡本 尚子	The Psychological Effects of Feedback on Students: Experimental Research Using a Psychophysiological Approach	共著	2020年9月	The Journal of Information and Systems in Education 19(1)	Yasufumi Kuroda	38-43	
56	中鹿 直樹	行動的 QOL に基づく支援とはどのような実践か	共著	2021年3月	対人援助学会対人援助学研究 11		48-59	
57	山口 洋典	PBLの風と土:(13)安定的な行動・状況の背景に根ざす信念	単著	2020年6月	対人援助学マガジン 11(1)		216-221	
58	山口 洋典	PBLの風と土:(14)学びの集団の成熟を通じた個々人の成長	単著	2020年9月	対人援助学会対人援助学マガジン 11(2)		206-211	
59	山口 洋典	PBLの風と土:(15)所属の獲得と相互承認による学びと成長	単著	2020年12月	対人援助学会対人援助学マガジン 11(3)		206-211	
60	山口 洋典	PBLの風と土:(16)身体性を重視して異文化対応に身構えを	単著	2021年3月	対人援助学会対人援助学マガジン 11(4)		178-183	
61	山口 洋典	国際教育交流が育む学生ピア・サポートの多様化ー多文化サービスラーニングの可能性を巡ってー	共著	2021年3月	立命館大学教育開発推進機構立命館高等教育研究 21	村山かなえ、北出慶子、遠山千佳、安田裕子	139-158	
62	孫 怡	「いばらきコホート調査」における倫理的配慮	共著	2020年6月	日本保健福祉学会誌 26(2)	神崎真実・川本静香・妹尾麻美・中田友貴・肥後克己・岡本尚子・安田裕子・サトウタツヤ・鈴木華子・矢藤優子	17-25	

63	孫 怡	「いばらきコホート調査」における調査設計と概要	共著	2020年6月	日本保健福祉学会誌 26(2)	妹尾麻美・肥後克己・神崎真実・中田友貴・川本静香・岡本尚子・安田裕子・サトウタツヤ・鈴木華子・矢藤優子	5-16	
64	神崎 真実	「いばらきコホート調査」における倫理的配慮	共著	2020年6月	日本保健福祉学会	妹尾麻美・孫怡・肥後克己・中田友貴・川本静香・岡本尚子・安田裕子・サトウタツヤ・鈴木華子・矢藤優子		
65	神崎 真実	「いばらきコホート調査」における調査設計と概要	共著	2020年6月	日本保健福祉学会	川本静香・妹尾麻美・中田友貴・肥後克己・孫怡・岡本尚子・安田裕子・サトウタツヤ・鈴木華子・矢藤優子		
66	中村 正	男たちの「暴力神話」と脱暴力臨床論—家庭内暴力の加害者心理の理解をもとにして—	単著	2020年4月	子どもの虐待とネグレクト 22(1)		50-56	
67	中村 正	地域との協働をかたちにする支援者支援セミナーの経験	単著	2020年4月	対人援助学研究 10(6)		62-73	
68	中村 正	臨床社会学の方法(29)リアリティとは何か—「ひとりだけど、ひとりじゃない」世界から考える	単著	2020年6月	対人援助学会対人援助学マガジン 11(1)		23-32	
69	中村 正	臨床社会学の方法(30)自由に生きるための知	単著	2020年9月	対人援助学会対人援助学マガジン 11(2)		21-32	
70	中村 正	臨床社会学の方法(31)男らしさを「聴く」	単著	2020年12月	対人援助学会対人援助学マガジン 11(3)		21-30	
71	中村 正	臨床社会学の方法(32)怒りが暴力を振るわせるのか—感情を生起させる「憎悪・嫌悪」の構図とアンガーマネジメントの乗りこえ—	単著	2021年3月	対人援助学会対人援助学マガジン 11(4)		26-35	
72	松田 亮三	立岩真也著『病者障害者の戦後：生政治史点描』	単著	2020年6月	立命館大学アジア・日本研究所立命館アジア・日本研究学術年報 (1)		125-128	
73	松田 亮三	新型コロナウイルス感染症への対応と保健行政の課題	単著	2020年9月	住民と自治 (689)		5-8	
74	松田 亮三	「新型コロナ」から日本の社会を考える(第4回)新型コロナウイルス感染症への対応と保健行政の課題	単著	2020年9月	自治体研究社住民と自治 (689)		5-8	
75	谷 晋二	特別支援教育分野への認知行動療法の適用と課題	単著	2020年9月	認知行動療法研究 46(2)		1-9	
76	谷 晋二	他者への視点取得とサポートティブなメッセージ筆記が状態せるふ・コンパッションに及ぼす影響	共著	2021年2月	立命館人間科学研究 (42)	谷 千聖	1-13	

77	竹内 謙彰	主体的学びが成立するための条件の探求	単著	2020年9月	立命館大学産業社会学会産業社会論集 56(2)		1-20	
78	津止 正敏	「男性介護者」の現状と支援の課題	単著	2020年6月	一般社団法人地域生活研究所まちと暮らし研究(31)		57-63	
79	津止 正敏	男性介護者の課題と家族支援	単著	2020年12月	日総研出版達人ケアマネ 15(2)		13-18	

(3). 研究発表等

No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	稲葉 光行	History and Prospects of Innocence Project Japan	2020年9月	Innocence International Asia Conference	
2	稲葉 光行	アドバンストな混合型データ分析の展望～質的・量的データのシームレスな分析の動向	2020年10月	第6回日本混合研究法学会年次大会	
3	稲葉 光行	構成主義的グラウンデッド・セオリー・アプローチの挑戦	2020年10月	第6回日本混合研究法学会年次大会	抱井尚子、グレゴリー・ハドリー
4	稲葉 光行	Building a Children-Centered Community in Japan: Constraints and Possibilities in Learning during the COVID-19 Crisis	2021年3月	University-Community Links 2021 Virtual International Conference	
5	安田 裕子	複線径路等至性アプローチ (Trajectory Equifinality Approach: TEA) ー基礎編	2020年9月	日本心理学会第84回大会	サトウタツヤ
6	安田 裕子	中高年夫婦に関する家族心理学研究の課題と展望ーリサーチ系論文を中心として	2020年9月	日本家族心理学会第37回大会	伊藤裕子・宇都宮博
7	安田 裕子	コレクティブ・トラウマモデルの理論的検討	2020年9月	日本コミュニティ心理学会第23回大会	川野健治・齋藤絢子・菊池美奈子・坪田祐季・河野暁子・朴希沙・張亦瑾・村本邦子・オイゲン・コウ
8	安田 裕子	コレクティブ・トラウマモデルに照らした東日本大震災被災地の文化とレジリエンス	2020年9月	日本コミュニティ心理学会第23回大会	村本邦子・張亦瑾・朴希沙・河野暁子・坪田祐季・菊池美奈子・齋藤絢子・川野健治
9	安田 裕子	セレンディピティ消費の概念化	2020年10月	日本マーケティング学会カンファレンス 2020	小菅竜介
10	安田 裕子	父母間での子の奪い合い紛争をめぐる法と心理	2020年10月	法と心理学会第21回大会	松本克美・小川富之・吉田容子・金成恩
11	安田 裕子	家族の形成過程と将来展望ー女性の語りから浮かび上がる妊娠の計画性/偶発性	2020年10月	日本質的心理学会第17回大会	三品拓人・妹尾麻美
12	安田 裕子	質的研究法マッピングの世界を語る	2020年10月	日本質的心理学会第17回大会	サトウタツヤ・田垣正晋・能智正博・西村ユミ・八ツ塚一郎・春日秀朗・神崎真実
13	安田 裕子	D. A. Poole 著 『Interviewing Children』から学ぶこと	2020年10月	法と心理学会第21回大会	田中晶子・羽瀨由子・仲真紀子・田中周子・佐々木真吾・田鍋佳子・赤嶺亜紀
14	安田 裕子	多声的空間の場とその意義ー国際交流学生スタッフ経験についての TEM (複線径路等至性モデリング) 図を通じたマルチビュー・ダイアログの試み	2020年10月	日本質的心理学会第17回大会	山口洋典・北出慶子・遠山千佳・村山かなえ
15	安田 裕子	講習会 複線径路等至性モデリング (TEM)	2020年10月	日本質的心理学会第17回大会	

		を学ぶ過程と発生をとらえる TEA の技法			
16	安田 裕子	全体会（基調講演、シンポジウム）（司会）	2021年1月	The 4th Transnational Meeting on TEA（第4回 TEA 国際集会）	滑田明暢・サトウタツヤ・Jaan Valsiner・土元哲平・宮下太陽・小澤伊久美・伴野崇生
17	安田 裕子	TEA（複線径路等至性アプローチ）の技法、トランスビューを体験しよう（講師）	2021年1月	The 4th Transnational Meeting on TEA（第4回 TEA 国際集会）	
18	安田 裕子	対談 満17歳を迎えた TEA; その径路と未来展望	2021年1月	The 4th Transnational Meeting on TEA（第4回 TEA 国際集会）	サトウタツヤ・上川多恵子
19	安田 裕子	コロナ感染拡大に伴う育児環境の変化が親子に及ぼす影響—日中比較調査	2021年3月	日本発達心理学会第32回大会	孫怡・矢藤優子・連傑濤・岡本尚子・サトウタツヤ・鈴木華子・肥後克己・破田野智己・土元哲平・神崎真実
20	安田 裕子	乳児の社会性発達と養育者のかかわりの質に関する縦断的研究—生後1・3・6ヵ月齢の行動観察から	2021年3月	日本発達心理学会第32回大会	矢藤優子・孫怡・藤戸麻美・岡本尚子・サトウタツヤ・鈴木華子・肥後克己・破田野智己・土元哲平・神崎真実
21	安田 裕子	多文化コミュニティでの越境的な対話を通じた発達の径路—正課外の市民性教育を通じた学生スタッフの学び合いと成長の支援に向けて	2021年3月	日本発達心理学会第32回大会	北出慶子・遠山千佳・村山かなえ・山口洋典
22	安田 裕子	いま、求められているシームレスな対人支援	2021年3月	日本発達心理学会第32回大会	矢藤優子・肥後克己・サトウタツヤ・鈴木華子
23	大谷 いづみ	「忘れられた感染症、ポリオ」のサバイバーとして聴く」（閉会挨拶）	2020年5月	オンラインセミナー「新型コロナウイルス感染症と生存学」	
24	大谷 いづみ	“The Covid-19 Crisis and the Experience of Polio Survivors: Life Before and After a Pandemic”	2020年7月	East Asia Disability Studies Forum 2020 Webinar on COVID-19 and Persons with Disabilities in East Asia	
25	大谷 いづみ	「移動・情報／教育・労働のアクセシビリティ—＜障害児・学生＞と＜障害のある教員＞の経験から」	2020年7月	土曜講座代替企画 ウィズコロナ／アフターコロナのアクセシビリティ	
26	林 勇吾	表情筋による協同学習プロセスの推定：ICAPに着目した検討	2020年9月	日本認知科学会第37回大会発表論文集	CAI Yuying, 下條 志巖
27	林 勇吾	プロンプト提示による協同プロセスの促進：ICAPに着目した実験的検討	2020年9月	日本認知科学会第37回大会発表論文集	下條 志巖
28	林 勇吾	インタラクティブ性の高い協同学習の支援に向けた実験的検討	2021年3月	人工知能学会第70回先進的学習科学と工学研究会資料	下條 志巖
29	金 成恩	父母間での子の奪い合い紛争をめぐる法と心理～日韓比較の観点から	2020年10月	法と心理学会第21回大会	
30	金 成恩	子の福祉の観点から「当たり前」とされてきた離婚の手続きの見直し～家庭裁判所の果たすべき役割	2020年10月	法と心理学会第21回大会	
31	矢藤 優子	唾液指標を用いた妊娠期女性のストレス状態および子どもの社会性と気質の検討	2020年5月	日本生理心理学会第38回大会	肥後 克己・岡本 尚子・孫 怡・妹尾麻美・神崎 真実・川本 静香・中田 友貴・李 星鎬・安田 裕子・サトウ タツヤ・鈴木 華子

32	矢藤 優子	中国農村部における育児環境と子どものアタッチメント安定性, 社会情緒発達に関連性	2020年9月	日本心理学会第84回大会	連 傑濤・孫 怡
33	矢藤 優子	Rey 複雑図形の描き順に影響する損傷部位と認知機能の探索 - 脳腫瘍患者の描画検討	2020年9月	日本心理学会第84回大会	依光美幸・塚田賢信・天野京子・長尾卯乃・幕内充・廣瀬翔平・山田良治
34	矢藤 優子	5ヵ月齢児の積み木課題場面における親子のかかわり: 母親の育児ストレス・養育態度・子どもの気質との関連	2020年9月	日本心理学会第84回大会	孫 怡, 藤戸麻美, 連傑濤, 眞田和恵, 小島晴予, 引間理恵
35	矢藤 優子	5ヵ月齢児のオムツ替え場面における母親の発話: 積み木課題場面との比較を通して	2020年9月	日本心理学会第84回大会	李星鎬, 孫 怡, 藤戸麻美, 小島めぐみ, 眞田 和恵, 小島晴予, 引間理恵
36	矢藤 優子	5ヵ月齢児のオムツ替え場面における母親の発話: 母親のかかわり方・子どもの社会性発達との関連	2020年9月	日本心理学会第84回大会	孫 怡, 藤戸麻美, 眞田和恵, 小島晴予, 引間理恵
37	矢藤 優子	現代日本社会におけるウェルビーイングとメンタルヘルスに関する研究	2020年11月	日本健康心理学会第33回大会 国際委員会企画シンポジウム	
38	矢藤 優子	乳児の社会性発達と養育者のかかわりの質に関する縦断的研究: 生後1・3・6ヵ月齢の行動観察から	2021年3月	日本発達心理学会第32回大会	孫 怡・藤戸 麻美・岡本 尚子・安田裕子・サトウ タツヤ・鈴木 華子・肥後 克己・破田野 智己・土元 哲平・神崎 真実
39	矢藤 優子	コロナ感染拡大に伴う育児環境の変化が親子に及ぼす影響: 日中比較調査	2021年3月	日本発達心理学会第32回大会	孫 怡・連 傑濤・岡本 尚子・安田 裕子・佐藤 達哉・鈴木 華子・肥後 克己・破田野 智己・土元 哲平・神崎 真実
40	矢藤 優子	エスノグラフィ視点なトランスナショナル発達科学の可能性	2021年3月	日本発達心理学会第32回大会	
41	矢藤 優子	いま, 求められているシームレスな対人支援	2021年3月	日本発達心理学会第32回大会	
42	矢藤 優子	養育環境が親子のかかわりの質, 子どもの内的問題に与える影響 — 交互作用の分析	2021年3月	日本発達心理学会第32回大会	連 傑濤・孫 怡
43	サトウタツヤ	ナラティブの心理学: ナラティブを再考する	2020年5月	第46回日本コミュニケーション障害学会	

44	サトウタツヤ	How COVID-19 crises affect Higher education in Japan: An exploratory research by university instructors	2020年5月	THE PSYCHOLOGY OF GLOBAL CRISES: STATE SURVEILLANCE, SOLIDARITY AND EVERYDAY LIFE	Ikumi Ozawa, Michiko Itou, Naoko Yokoyama, and Kiyoka Shigetoshi
45	サトウタツヤ	TEA 複線径路等至性アプローチにみる看護教員の力量形成過程～A 教員の自己内対話に着目した記号の三層化～	2020年9月	日本看護学教育学会第30回学術集会	田中千尋・横山直子
46	サトウタツヤ	TEAによるキャリア転換経験の分析—分岐ゾーンにおける人と記号の調整過程に焦点をあてて—	2020年9月	日本心理学会第84回大会	宮下太陽
47	サトウタツヤ	国外の先行研究からみる日本型司法取引に関する研究の展望	2020年10月	法と心理学会第21回大会	廣田貴也 中田友貴 若林宏輔
48	サトウタツヤ	キャリアの分岐ゾーンにおける TLMG とイマジネーション	2020年10月	日本キャリア教育学会第42回研究大会	宮下太陽
49	サトウタツヤ	Analysis of Bifurcation Zones in Career Transition	2020年10月	台湾心理学会59回大会	Taiyo Miyashita
50	サトウタツヤ	コスプレの魅力とは—歴史的検討とフィールドワークの融合を目指して	2020年10月	日本質的心理学会第17回大会	福山未智
51	サトウタツヤ	The Appeal of Cosplay as Seen through Fieldwork and a Historical Examination	2021年1月	The 4th Transnational Meeting on TEA	Misato Fukuyama
52	安田 裕子	複線径路等至性アプローチ (Trajectory Equifinality Approach: TEA) —基礎編	2020年9月	日本心理学会第84回大会	サトウタツヤ
53	安田 裕子	中高年夫婦に関する家族心理学研究の課題と展望—リサーチ系論文を中心として	2020年9月	日本家族心理学会第37回大会	伊藤裕子・宇都宮博
54	安田 裕子	コレクティブ・トラウマモデルの理論的検討	2020年9月	日本コミュニティ心理学会第23回大会	川野健治・齋藤絢子・菊池美奈子・坪田祐季・河野暁子・朴希沙・張亦瑾・村本邦子・オイゲン・コウ
55	安田 裕子	コレクティブ・トラウマモデルに照らした東	2020年9月	日本コミュニティ心理学会第23回大会	村本邦子・張亦瑾・朴希沙・河野暁子・坪田祐季・菊池美奈子・齋藤絢子・川野健治

		日本大震災被災地の文化とレジリエンス			
56	安田 裕子	セレンディピティ消費の概念化	2020年10月	日本マーケティング学会カンファレンス2020	小菅竜介
57	安田 裕子	父母間での子の奪い合い紛争をめぐる法と心理	2020年10月	法と心理学会第21回大会	松本克美・小川富之・吉田容子・金成恩
58	安田 裕子	家族の形成過程と将来展望—女性の語りから浮かび上がる妊娠の計画性／偶発性	2020年10月	日本質的心理学会第17回大会	三品拓人・妹尾麻美
59	安田 裕子	質的研究法マッピングの世界を語る	2020年10月	日本質的心理学会第17回大会	サトウタツヤ・田垣正博・能智正博・西村ユミ・八ッ塚一郎・春日秀朗・神崎真実
60	安田 裕子	D. A. Poole 著『Interviewing Children』から学ぶこと	2020年10月	法と心理学会第21回大会	田中晶子・羽瀨由子・仲真紀子・田中周子・佐々木真吾・田鍋佳子・赤嶺亜紀
61	安田 裕子	多声的空間の場とその意義—国際交流学生スタッフ経験についてのTEM(複線径路等至性モデリング)図を通じたマルチビュー・ダイアログの試み	2020年10月	日本質的心理学会第17回大会	山口洋典・北出慶子・遠山千佳・村山かなえ
62	安田 裕子	講習会 複線径路等至性モデリング(TEM)を学ぶ—過程と発生をとらえるTEAの技法	2020年10月	日本質的心理学会第17回大会	
63	安田 裕子	全体会(基調講演、シンポジウム)(司会)	2021年1月	The 4th Transnational Meeting on TEA(第4回TEA国際集会)	滑田明暢・サトウタツヤ・Jaan Valsiner・土元哲平・宮下太陽・小澤伊久美・伴野崇生
64	安田 裕子	TEA(複線径路等至性アプローチ)の技法、トランスビューを体験しよう(講師)	2021年1月	The 4th Transnational Meeting on TEA(第4回TEA国際集会)	
65	安田 裕子	対談 満17歳を迎えたTEA;その径路と未来展望	2021年1月	The 4th Transnational Meeting on TEA(第4回TEA国際集会)	サトウタツヤ・上川多恵子
66	安田 裕子	コロナ感染拡大に伴う育児環境の変化が親子に及ぼす影響—日中比較調査	2021年3月	日本発達心理学会第32回大会	孫怡・矢藤優子・連傑濤・岡本尚子・サトウタツヤ・鈴木華子・肥後克己・破田野智己・土元哲平・神崎真実
67	安田 裕子	乳児の社会性発達と養育者のかかわりの質に関する縦断的研究—生後1・3・6ヵ月齢の行動観察から	2021年3月	日本発達心理学会第32回大会	矢藤優子・孫怡・藤戸麻美・岡本尚子・サトウタツヤ・鈴木華子・肥後克己・破田野智己・土元哲平・神崎真実

68	安田 裕子	多文化コミュニティでの越境的な対話を通じた発達の径路—正課外の市民性教育を通じた学生スタッフの学び合いと成長の支援に向けて	2021年3月	日本発達心理学会第32回大会	北出慶子・遠山千佳・村山かなえ・山口洋典
69	安田 裕子	いま、求められているシームレスな対人支援	2021年3月	日本発達心理学会第32回大会	矢藤優子・肥後克己・サトウタツヤ・鈴木華子
70	岡本 尚子	教師の経験や知識は学習者観察の視点に違いをもたらすのか—筆算観察時の視線計測—	2020年5月	第38回日本生理心理学会大会	黒田恭史
71	岡本 尚子	唾液指標を用いた妊娠期女性のストレス状態および子どもの社会性と気質の検討	2020年5月	第38回日本生理心理学会大会	肥後克己, 孫怡, 妹尾麻美, 神崎真実, 川本静香, 中田友貴, 李星鎬, 矢藤優子, 安田裕子, サトウタツヤ, 鈴木華子
72	岡本 尚子	シンガポールの算数科におけるunitの扱い	2020年9月	数学教育学会2020年度秋季例会	
73	岡本 尚子	シンガポールにおける初等教員養成—数学教育を中心に—	2020年11月	日本教育実践学会 第23回研究大会	
74	岡本 尚子	The subjective well-being of women during the transition from pregnancy to postpartum in Japan	2020年11月	日本健康心理学会 第33回大会	Sun Yi, Asami Senoo, Shizuka Kawamoto, Katsumi Higo, Mami Kanzaki, Yuki Nakata, Yuko Yasuda, Tatsuya Sato, Hanako Suzuki, Yuko Yato
75	岡本 尚子	Characteristics of order memory and its relation to problem-solving	2020年11月	Psychonomic Society's 61th Annual Meeting	Katsuki Higo
76	岡本 尚子	割合の文章題の指導について—視線移動に着目して—	2021年3月	教育システム情報学会2020年度学生研究発表会	岡田祐佳, 黒田恭史
77	岡本 尚子	メンタルローテーション課題時の視線移動の特徴の考察	2021年3月	教育システム情報学会2020年度学生研究発表会	近藤竜生, 黒田恭史
78	岡本 尚子	コロナ感染拡大に伴う育児環境の変化が親子に及ぼす影響—日中比較調査—	2021年3月	日本発達心理学会第32回大会	孫怡, 矢藤優子, 連傑講, 安田裕子, サトウタツヤ, 鈴木華子, 肥後克己, 破田野智己, 土元哲平, 神崎真実
79	岡本 尚子	乳児の社会性発達と養育者のかかわりの質に関する縦断的研究—生後1・3・6ヵ月齢の行動観察から—	2021年3月	日本発達心理学会第32回大会	矢藤優子, 孫怡, 藤戸麻美, 安田裕子, サトウタツヤ, 鈴木華子, 肥後克己, 破田野智己, 土元哲平, 神崎真実

80	岡本 尚子	一斉休校期間における保護者の意識調査をもとにした情報配信のあり方	2021年3月	日本教育工学会 2021年春季全国大会	黒田恭史
81	中鹿直樹	ハトにおける照明の自己管理の検討	2020年8月	一般社団法人日本行動分析学会 第38回年次大会	井上まどか
82	中鹿直樹	指導者からの自己記述へのフィードバックの有無による障害のある生徒の行動の変化：模擬喫茶店舗を利用した職場実習場面において	2020年9月	日本心理学会第84回大会	山田沙樹・高山仁志・土田菜穂
83	中鹿直樹	在宅リハビリテーション患者に対するアクセプタンス&コミットメントセラピーの効果とプロセスに関する予備的研究	2020年9月	日本認知・行動療法学会第46回大会	仲上恭子・谷晋二
84	中鹿直樹	特別支援学校教員の賞賛行動の行動変容を目指した介入(1) パフォーマンス・フィードバックとセルフ・モニタリングを組み合わせた手続きの効果について	2020年9月	日本特殊教育学会第58回大会	土田菜穂・衛藤優里
85	中鹿直樹	特別支援学校教員の賞賛行動の行動変容を目指した介入(2) 言語賞賛を含む言葉かけの変容に着目して	2020年9月	日本特殊教育学会第58回大会	衛藤優里・土田菜穂
86	北出 慶子	ナラティブを通じた意味生成における多声的空間の場とその意義	2020年10月	日本質的心理学学会 第17回年次大会	山口洋典、遠山千佳、村山かなえ、安田裕子
87	北出 慶子	言語文化的マイノリティの支援を通じたE-サービス・ラーニングモデルの開発	2021年2月	国際ボランティア学会 第22回年次大会	遠山千佳・山口洋典
88	北出 慶子	多文化コミュニティでの越境的な対話を通じた発達の径路	2021年3月	日本発達心理学会 第32回大会	
89	山浦 一保	Opposition force makes the business philosophy permeate into the members : The case of Inamori	2020年5月	III International Congress of Work Psychology and Human Resources	Yamaura, K., Kawai, T., Kono, T., González-Romá, V., & Sato, T.

		philosophy.			
90	山浦 一保	高校硬式野球部選手における野菜ジュース摂取行動に対する計画的行動理論の有用性の検討	2020年9月	第67回日本栄養改善学会	井上幹太・首藤由佳・山浦一保・海老久美子
91	山浦 一保	Prestige and Reconciliation in the Workplace	2021年2月	Society for Personality and Social Psychology (SPSP)	Ohtsubo, Y & Yamaura, K
92	山口洋典	共同オンライン対話：学生セッション	2020年8月	JOELN・ISVS 共同オンライン対話セッション「With コロナ時代の海外・国内体験学習の現状と課題」	
93	山口洋典	交流委員会企画「ポスト質的心理学とこれからのアクションリサーチー世界的危機の恒常化時代を迎えてー」	2020年10月	日本質的心理学会第17回大会	日比野愛子・宮本匠・大石尚子・香川秀太・河合直樹
94	山口洋典	会員企画シンポジウム「ナラティブを通じた意味生成における多声的空間の場とその意義ー国際交流学生スタッフ経験についてのTEM(複線径路等至性モデリング)図を通じたマルチビュー・ダイアローグの試みー」	2020年10月	日本質的心理学会第17回大会	北出慶子・遠山千佳・村山かなえ・安田裕子
95	山口洋典	言語文化的マイノリティの支援を通じたE-サービス・ラーニングモデルの開発	2021年2月	第22回国際ボランティア学会学術大会	北出慶子・遠山千佳
96	山口洋典	多文化コミュニティでの越境的な対話を通じた発達の経路：正課外の市民性教育を通じた学生スタッフの学び合いと成長の支援に向けて	2021年3月	日本発達心理学会第32回大会	北出慶子・遠山千佳・村山かなえ・安田裕子
97	孫怡	中国農村部における育児環境と子どものアタッチメント安定性,社会情緒発達の関連性	2020年9月	日本心理学会第84回大会	連傑濤・矢藤優子
98	孫怡	5ヶ月齢児のオムツ替え場面における母親の発話：母親のかかわり方・子どもの社会性発	2020年9月	日本心理学会第84回大会	矢藤優子・藤戸麻美・真田和恵・小島晴与・引間理恵

		達との関連			
99	孫怡	5ヶ月齢児のオムツ替え場面における母親の発話一積み木課題とオムツ替え場面の比較を通してー	2020年9月	日本心理学会第84回大会	李星鎬・矢藤優子・藤戸麻美・小島めぐみ・真田和恵・小島晴与・引間理恵
100	孫怡	5ヶ月齢児の積み木課題場面における親子のかかわり：母親の育児ストレス・養育態度・子どもの気質との関連	2020年9月	日本心理学会第84回大会	矢藤優子・藤戸麻美・連傑濤・真田和恵・小島晴与・引間理恵
101	土田 宣明	多連続エラーにおける加齢効果	2020年9月	日本心理学会第84回大会	春日彩花
102	土田 宣明	マス計算を用いた注意機能測定の見直し：生涯発達の観点から	2021年3月	日本発達心理学会第32回大会	戸名久美子
103	中村 正	ラウンドテーブル立ち直りから「居直り」へーダルクの多元性・地域性を考えるー	2020年10月	日本犯罪学会第47回大会	高橋康史、市川岳仁
104	中村 正	虐待する父親への「男親塾」の取り組みから	2020年11月	日本子ども虐待防止学会第26回学術集会	
105	中村 正	フランス児童福祉分野の対人援助ー「予防」と「連携」そして「連帯」へ	2020年11月	対人援助学会第12回大会	安發明子、中島弘美
106	松田 亮三	新型コロナ感染症にみる日本医療機構のレジリエンス	2020年8月	日本医療福祉政策学会 第4回研究例会	
107	谷 晋二	How facial makeup effects on the implicit or explicit relational responses?	2020年7月	Association of Contextual Behavioral Science 18th	YOSHIOKA Megumi
108	谷 晋二	Examination of the effect of label stimulus used for self-IRAP in Japanese and Chinese	2020年7月	Association of Contextual Behavioral Science 18th	ZHANG Pin
109	谷 晋二	認知行動療法のスーパービジョンACTの立場から	2020年9月	日本認知・行動療法学会 第46回大会	
110	谷 晋二	Online-ACT Matrix for an adolescent with ASD	2021年3月	Association of Behavior Analysis International 15th Annual Autism Conference	
111	津止 正敏	介護役割を担う男性	2020年9月	日本ジェンダー学会第23回大会	
112	星野 祐司	異質性によって引き起こされる順向健忘と同質項目の提示時間の関係	2020年9月	日本心理学会第84回大会	小島陸

(4). 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	新型コロナウイルス感染症と医療福祉政策（日本医療福祉政策学会第4回研究例会）	オンライン	2020年8月	50	日本医療福祉政策学会
2	イノセンス運動の現在（いま）雪冤事件から考える	オンライン	2020年10月	50	立命館大学 立命館グローバル・イノベーション研究機構 「修復的司法観に基づく少子高齢化社会に寄り添う社会の構築」
3	人間科学研究所20周年企画「人間科学の未来—多様性を架橋する」	オンライン	2021年2月	100	-

(5). その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	稲葉 光行	2020年度・八幡市における子どもを中心とした地域の学びとコミュニティ活性化の支援活動実践	八幡市ふるさと学習館	2020年4月～2021年3月
2	安田 裕子	TEM/TEA zoom 講習会 過程と発生をとらえる TEA—多様性・複線性を可視化する TEM を中心に	立命館大学（オンライン研究会）、科学研究費補助金基盤研究（C）日本語支援者の学び解明と促進を目指した多文化サービスラーニングの開発（代表：立命館大学 北出慶子）	2020年6月～2020年6月
3	安田 裕子	複線径路等至性アプローチ オンライン研究会 研究発表／話題提供 司会	立命館大学（オンライン研究会）	2020年7月～2020年7月
4	安田 裕子	高齢者の理解と心理的支援	令和2年度 大阪市介護相談研修（後期・基礎講座），大阪市立社会福祉センター"	2020年9月～2020年9月
5	安田 裕子	TEA 研究会 & TEA 分析学会（仮称）キックオフミーティング シンポジウム モデレーター	立命館大学（オンライン研究会）	2020年9月～2020年9月
6	安田 裕子	シンポジウム「つながること・支えること」の人間科学—危機に学び、未来へ結ぶ	京都市・立命館大学朱雀キャンパス1階多目的室、立命館大学人間科学研究所創立20周年記念総会/立命館土曜講座 公開講演会「人間科学の未来—多様性を架橋する」	2021年2月～2021年2月
7	安田 裕子	TEA による未来拡張型購買の概念化	立命館大学（オンライン研究会）、第7回 立命館大学 ものづくり質的研究センター研究会	2021年2月～2021年2月
8	安田 裕子	TEA 研究会（コメンテーター）	立命館大学（オンライン研究会）	2021年3月～2021年3月
9	サトウタツヤ	「日赤発」この情報本当？ 新型コロナ「医療ひっ迫」LINE拡散 識者「典型的デマの手法」	東京新聞	2020年4月
10	サトウタツヤ	感染デマにチラシで対抗、愛知 死亡のうわさに店主憤慨	共同通信	2020年5月
11	サトウタツヤ	コロナ情報の信ぴょう性、7割近くがチェック 立命館大がオンラインで調査	毎日新聞	2020年5月
12	サトウタツヤ	Frontline health workers in Japan face discrimination over virus	KYODO NEWS	2020年5月
13	安田 裕子	TEM/TEA zoom 講習会 過程と発生をとらえる TEA—多様性・複線性を可視化する TEM を中心に	立命館大学（オンライン研究会）、科学研究費補助金基盤研究（C）日本語支援者の学び解明と促進を目指した多文化サービスラーニングの開発（代表：立命館大学 北出慶子）	2020年6月～2020年6月
14	安田 裕子	複線径路等至性アプローチ オンライン研究会 研究発表／話題提供 司会	立命館大学（オンライン研究会）	2020年7月～2020年7月
15	安田 裕子	高齢者の理解と心理的支援	令和2年度 大阪市介護相談研修（後期・基礎講座），大阪市立社会福祉センター"	2020年9月～2020年9月
16	安田 裕子	TEA 研究会 & TEA 分析学会（仮称）キックオフミーティング シンポジウム モデレーター	立命館大学（オンライン研究会）	2020年9月～2020年9月
17	安田 裕子	シンポジウム「つながること・支えること」の人間科学—危機に学び、未来へ結ぶ	京都市・立命館大学朱雀キャンパス1階多目的室、立命館大学人間科学研究所創立20周年記念総会/立命館土曜講座 公開講演会「人間科学の未来—多様性を架橋する」	2021年2月～2021年2月
18	安田 裕子	TEA による未来拡張型購買の概念化	立命館大学（オンライン研究会）、第7回 立命館大学 ものづくり質的研究センター研究会	2021年2月～2021年2月
19	安田 裕子	TEA 研究会（コメンテーター）	立命館大学（オンライン研究会）	2021年3月～2021年3月
20	山浦 一保	コロナ渦…甲子園やインターハイ中止：生徒の喪失感 どう対処	産経新聞 21面, 2020年6月1日	2020年6月
21	山浦 一保	在宅で新人教育 不安 実務なく「社会人の実感わかない」	読売新聞 10面, 2020年8月3日	2020年8月
22	山浦 一保	コーチング・クリニック10月号 特集「信頼関係」の構築法	ベースボール・マガジン社	2020年10月

23	山浦 一保	令和2年度 静岡県立大学経営情報学部特別講義		2020年12月～2020年12月
24	山浦 一保	立命館大学オンラインプレスセミナー デジタル社会が引き起こす心の不調や孤立をヘルステックで予防：オンライン上からメンタルの状態を計測する「心の距離メーター」と“空気感”を可視化させる未来の挑戦	ZOOM (プレス発表)	2021年2月～2021年2月
25	中村 正	座談会：多声的で小さな物語を聴くことの意味 一災禍を生き抜くレジリエンスとコミュニティ	対人援助学研究	2020年4月
26	松田 亮三	Japan's Response to the Coronavirus - Now updated (18 May 2020).	Cambridge Core Blog (https://www.cambridge.org/core/blog/2020/04/11/japans-response-to-the-coronavirus-pandemic/)	2020年1月～2020年4月
27	松田 亮三	Japan's Response to the Coronavirus(11 April 2020).	Cambridge Core Blog (https://www.cambridge.org/core/blog/2020/04/11/japans-response-to-the-coronavirus-pandemic/)	2020年1月～2020年4月

(6). 受賞学術賞

No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	岡本 尚子	数学教育学会	2020年度馬場賞 (優秀論文賞)		2021年3月
2	谷 晋二	Associate for Contextual Behavioral Science	Associate for Contextual Behavioral Science Fellow 2020		2020年6月

(7). 科学研究費助成事業

No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	稲葉 光行	看護研究における混合研究法教育用ガイドブックの開発とeラーニングの構築	基盤研究(B)	2020年4月	2025年3月	分担
2	稲葉 光行	仮想空間を媒介とした日本文化に関する状況学習支援環境に関する総合的研究	基盤研究(B)	2020年4月	2025年3月	代表
3	林 勇吾	協同学習における主体的な学びの育成のための知的学習支援システムに関する総合的検討	基盤研究(B)	2020年4月	2024年3月	代表
4	林 勇吾	小集団におけるインタラクション要因の解明：実験システムの開発と認知科学的検討	挑戦的研究(萌芽)	2020年7月	2023年3月	代表
5	松本 克美	性的被害に対する損害賠償請求権の消滅時効論一解釈論・立法論の現代化	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	代表
6	金 成恩	法と心理の連携による離婚紛争の合意解決支援一修復的司法の家族法への展開	基盤研究(C)	2020年4月	2022年3月	代表
7	山田 早紀	日本における取調べへの弁護人の立会いの運用可能性	若手研究	2019年4月	2022年3月	代表
8	我藤 諭	性加害行為があった知的障害者へのグッドウェイモデル適用からみる地域生活継続要因	基盤研究(C)	2020年4月	2024年3月	分担
9	矢藤 優子	親子の社会的関係性に関する胎児期からの縦断研究：子育て支援政策への提言をめざして	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	代表
10	矢藤 優子	女性の産後育児支援の多様性及び母子のwell-beingへの影響の日中韓比較研究	国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化) (B)	2020年10月	2025年3月	代表
11	斎藤 進也	インタラクティブCG技術を用いた質的調査法の拡張に関する研究	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	代表
12	孫 怡	親子の関わり方が幼児の食事問題行動および母親の精神健康に与える影響一日中比較	若手研究	2020年4月	2023年3月	代表
13	松田 亮三	多様化する社会における福祉体制の動態一日韓台比較研究を通じた理論開発	基盤研究(B)	2020年4月	2024年3月	代表
14	松田 亮三	個人のライフコースと地域環境の変化を統合する健康地理学の研究	基盤研究(A)	2020年4月	2025年3月	分担
15	斎藤 真緒	家族責任規範の構築・脱構築一多様化するケアラー支援のためのメタ分析	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	代表
16	都賀 美有紀	加齢にともなう「うっかり忘れ」の変化の実態調査と認知機能との関連および機序の解明	若手研究	2020年4月	2023年3月	代表
17	早川 岳人	ライフコースを通じた現代日本人のための循環器疾患発症予測ツールの開発	基盤研究(B)	2019年4月	2022年3月	分担
18	中村 正	男性性と暴力の臨床社会学的研究	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表

19	中村 正	教養知とその形成—その比較分析と教養教育の類型化の実践的検証	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	分担
20	サトウ タツヤ	「わかる」と「できる」が拡大し、キャリアが展望できる「チーム探究」に関する研究	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	分担
21	山口 洋典	市民性涵養の関係性モデルを軸とした地域参加学習カリキュラムと教授法の開発	基盤研究(C)	2018年4月	2022年3月	代表
22	山口 洋典	日本語支援者の学び解明と促進を目指した多文化サービスラーニングの開発	基盤研究(C)	2019年4月	2021年3月	分担
23	山崎 優子	法学・心理学・脳神経科学の学際的研究による取調の適切性を評価する客観的尺度の構築	挑戦的研究(萌芽)	2018年7月	2021年3月	代表
24	仲 真紀子	児童虐待の刑事法的規制に関する領域横断型研究	基盤研究(B)	2020年4月	2024年3月	分担
25	仲 真紀子	日本語弱者の司法面接法の検討：外国語通訳を介した子どもの証言の心理・通訳学的分析	挑戦的研究(萌芽)	2020年7月	2023年3月	分担
26	仲 真紀子	わが国における神経法学の基盤的研究—法学・医学・心理学の協働—	基盤研究(B)	2019年4月	2023年3月	分担
27	森久 智江	「治療的司法」と問題解決型裁判所—制度改革のための理論構築と立法提言	基盤研究(A)	2020年4月	2024年3月	分担
28	森久 智江	年長少年および若年成人に対する「新たな処遇」に関する総合的研究	基盤研究(B)	2020年4月	2024年3月	分担
29	森久 智江	性加害行為があった知的障害者へのグッドウェイモデル適用からみる地域生活継続要因	基盤研究(C)	2020年4月	2024年3月	分担
30	森久 智江	再犯防止概念の多角的検討	基盤研究(B)	2019年4月	2022年3月	分担
31	森久 智江	危険社会における終身拘禁者の社会復帰についての総合的研究：無期受刑者処遇の社会化	基盤研究(B)	2017年4月	2021年3月	分担
32	岡本 尚子	外国人高校生の中退率7.4倍を改善する多言語対応版数学動画コンテンツの開発と普及	挑戦的研究(萌芽)	2020年7月	2023年3月	分担
33	岡本 尚子	移民児童に向けたICT学習支援国際ネットワークを確立するためのアクションリサーチ	基盤研究(C)	2020年4月	2024年3月	分担
34	安田 裕子	法と心理の連携による離婚紛争の合意解決支援—修復的司法の家族法への展開	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	分担
35	安田 裕子	10代母親の逆境的小児期体験(ACE)を踏まえた妊娠期からの訪問プログラム開発	基盤研究(B)	2019年4月	2024年3月	分担
36	安田 裕子	脱刑事罰処理を支える「治療法学」の確立に向けた学融的総合的研究	基盤研究(A)	2019年5月	2024年4月	分担
37	松田 亮三	多様化する社会における福祉体制の動態—日韓台比較研究を通じた理論開発	基盤研究(B)	2020年4月	2024年3月	代表
38	松田 亮三	多様化する社会における福祉体制の動態—日韓台比較研究を通じた理論開発	基盤研究(B)	2020年4月	2024年3月	代表
39	松田 亮三	個人のライフコースと地域環境の変化を統合する健康地理学の研究	基盤研究(A)	2020年4月	2025年3月	分担
40	中村 正	男性性と暴力の臨床社会学的研究	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
41	中村 正	教養知とその形成—その比較分析と教養教育の類型化の実践的検証	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	分担
42	山口 洋典	市民性涵養の関係性モデルを軸とした地域参加学習カリキュラムと教授法の開発	基盤研究(C)	2018年4月	2022年3月	代表
43	山口 洋典	日本語支援者の学び解明と促進を目指した多文化サービスラーニングの開発	基盤研究(C)	2019年4月	2021年3月	分担
44	斎藤 真緒	家族責任規範の構築・脱構築—多様化するケアラー支援のためのメタ分析	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	代表
45	都賀 美有紀	加齢にともなう「うっかり忘れ」の変化の実態調査と認知機能との関連および機序の解明	若手研究	2020年4月	2023年3月	代表
46	竹内 謙彰	認知的側面と自己意識の諸側面とを関連づけた学童期の発達アセスメント	基盤研究(C)	2019年4月	2021年3月	代表
47	岡田 まり	コンピテンシーに基づくスーパーバイザー養成プログラムのモデル構築	基盤研究(B)	2019年4月	2023年3月	代表
48	岡田 まり	成長に応じるスーパービジョンモデルとバイザー研修・支援システムの構築に関する	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	分担

